

【磯子区】令和6年第3回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和6年9月6日 10時00分 ～ 11時 30分
場 所	磯子区役所7階 701、702会議室
出席者	<p>【座 長】 太田 正孝 議員</p> <p>【議 員：3名】 関 勝則 議員、二井 くみよ 議員 武田 勝久 議員</p> <p>【磯子区：26名】 高橋 功 区長、八谷 将人 副区長、 近藤 健彦 福祉保健センター長、 立花 千恵 福祉保健センター担当部長、 松本 英之 磯子土木事務所長 渡邊 浩司 磯子消防署長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>議題1 令和5年度磯子区個性ある区づくり推進費の決算について</p> <p>議題2 令和6年度磯子区個性ある区づくり推進費の執行状況について</p> <p>議題3 令和7年度磯子区予算編成の考え方について</p>
発 言 の 旨	<p>議題1 令和5年度磯子区個性ある区づくり推進費の決算について</p> <p>二井議員：3ページの区連合町内会長会のデジタル化支援ですが、会長の皆さまがオンラインで気軽に意見交換や情報共有ができるよう支援をされたということで、素晴らしい取組だと思っておりますが、この活用について皆さま一律に活用されているのか、活用されていない会長がいらっしゃったらオンライン上の情報交換の場に参加できないということになりますので、そうした点でフォロー等がされているのか、実態等についてお伺いします。</p> <p>柿崎地域振興課長：地区連合町内会長9名の皆さまが意見交換できるように令和6年3月から本格的に運用を開始しています。9名の地区連合町内会長の中で、積極的に書き込んでいただいている方と、そうではない方との差はございます。導入にあたりまして、区連会後の時間を使いまして使用方法を直接レクチャーさせていただ</p>

たり、なかなか使われていない会長さんに対しては個別にお話しさせていただき、出来る限り気軽にこの掲示板上で意見交換ができるように、引き続き、支援して参りたいと考えております。

二井議員：ぜひ色々な形でサポートをお願いします。

次に、防災の関係で2点ほどお伺いします。31ページの物置の設置ですが、これに関しては、今年度の市の予算でも、防災拠点の備蓄庫が狭い箇所について物置を導入するという取組が行われていると思います。一方、磯子区ではこの5拠点、先行して独自に備蓄庫の収容スペースの不足解消のために動いてくださったということでありがたいと思いますが、市の予算のとの兼ね合いはどうなっていくのか、スペースの問題もあるとは思いますが、備蓄スペースが広ければ広いほど様々な必要な備蓄品を入れることもできると思うので、そのあたり、昨年と今年との市の予算との兼ね合いをどのようにされているのかお伺いします。

角田総務課長：総務局の簡易倉庫設置事業と磯子区独自の物置設置事業についてのご質問ですが、磯子区の物置設置事業は、令和3年度から全21カ所の拠点に設置することを目標に実施しており、これまで令和3年度から5校、4校、5校と設置しまして、今年度5校、予算次第ですが来年度2校設置できれば、これで全拠点に設置となります。はまっこトイレなど色々備蓄品が増えてきまして、狭いというお話を伺っておりますので、学校や運営委員会のみなさま方とも相談をしながら、全校に設置できるようにしました。不要なものについては引き上げるなど整理を行うということも行ってきました。また、総務局予算については、標準面積26.73㎡に満たない防災備蓄庫について、5㎡の簡易倉庫を増設すると聞いておりますので、地域のニーズと実際の使い勝手の部分を確認しながらそれぞれで対応できるようにと思っております。

二井議員：そうしますと、区は来年度2校設置予定で、設置が完了した段階で総務局の基準を満たさない場合には、さらに設置をされるということになると思いますが、だいたい何件くらいになるのかお伺いします。

角田総務課長：磯子区に関しては予定どおり進められればと思っておりますが、総務局が本年度既に5箇所調査が入っており、その5箇所を設置することで調整が進んでおります。

二井議員：学校によっては、面積的に置き場所がないという学校もあると思いますが、地域からは備蓄品が足りないというご要望もいただいているので、もし空きスペースをしっかりと活用できるのであれば、引き続き備蓄品の拡充に向けてご検討いただければと思います。

最後の質問です。32ページの防災啓発動画について、私も全部拝見をして、短時間でも見ることができ、大変分かりやすく勉強にもなり良い動画だと思いました。こういう動画を区内の子どもたちが見てくれるというのはとても嬉しいですが、動画の視聴数について、どれぐらいの区内の小・中学生が見てくれたのかお伺いします。

角田総務課長：区内小・中学校にはご要望があればお伺いしますとお話をしておりまして、実際学校には23校中これまで8校に伺い、全体集会の時間や朝礼の際に少しお話をし一部動画を視聴いただくなど工夫をしております。また各校にはDVDも配布しております。動画の視聴数ですが、You Tube に上げておりますので、どの年齢層の方がご覧いただいたかというところまでは分かりませんが、再生回数としては5話ございますが、4話の「トイレと水は我慢できない」という動画は本日時点で4,400回以上ご覧いただいております、他の動画も400回前後から5,000回ぐらいまで、磯子の映像も入っておりますので、興味を持ってご覧いただけているかなと思っております。

二井議員：23校中8校ではそのようにされたということですが、残りの学校については、今後何か紹介される予定はあるのかお伺いします。

角田総務課長：区内の小中学校長会でご説明をしており、学校のご要望に応じてとなっておりますが、常に活用についてはお願いしておりますので、この後は様子を見つつと考えております。

議題 2 令和6年度磯子区個性ある区づくり推進費の執行状況について

武田議員：7ページの磯子まつり事業について、今月末に開催されるということですが、昨年開催された後に、ある地域の方から、開催していることを知らなかったというようなお声がありましたので、もっと盛大に盛り上げてほしいというところがあります。これまでの広報のやり方や、取り組み方についてお伺いします。

柿崎地域振興課長：実行委員会の皆さまとご相談しながら、広報としては、広報よこはまをはじめ、タウンニュースやはまかぜ新聞などの媒体を通じた告知を主にやっております。

また、特設ホームページもございますので、QRコード等でご案内しています。周知につきましては、次年度以降、2027年の区制100周年のまつりに向けまして、実行委員会の皆さまとご相談しながら、より効果的な広報のあり方について研究していきたいと考えております。

武田議員：10ページのまちの美化推進事業について、いよいよ磯子区でプラごみの先行分別が始まりますので、いろいろと周知を進めているところだと思います。ごみを回収して中間処理する事業者さんから直接話を伺ったときに開口一番言われたのが、モバイルバッテリーの火災がすごく心配だということでした。小型家電で別に分けて出さないといけないということを知らずに、そのままごみとして出す方がいて、収集車に入ったときに衝撃を受けて発火し、火災になってしまう。モバイルバッテリー等の小型家電はプラスチック製が多く、これまではプラ製品を燃やすごみとして出していて、発火したときに燃え移ったりしますが水分のある生ごみなどもあるので、そんなに燃焼しないケースもありましたが、今後プラ製品がプラごみになるので、モバイルバッテリーがプラごみに紛れても気づかずに回収し、衝撃が与えられ燃え広がってしまう危険性が増すということで、事業者さん側は危機感をもっています。この危険性をしっかりと周知できるよう工夫をお願いしたいということで、ご要望させていただきます。

また、ごみの分別マナーというのは地域差があり、徹底ししっかりやっている地域もあれば、なかなかそれが浸透されずに進まない地域もあるという話も伺いました。分別ルール・マナーが徹底されないというところには、メリハリつけながら、マナー指導が必要ではないかと思っていますが、お考えがもしあれば伺います。

関資源化推進担当課長：まず1点目のモバイルバッテリーにつきましては、ご指摘のとおり、発火の危険があるというのは紛れもない事実でございます。プラスチックごみの分別拡大に向けて様々な広報、啓発を行っていきまして、説明会などではかなり時間をとってお話できるので、必ず触れるようにしております。また、プラスチックの分別が変わりますというリーフレットを全戸配布していますが、その中でも発火の危険があるものとして、モバイルバッテリーや電気・電池で動くものを記載しておりますし、既に徐々にお配りをしておりますが、ごみと資源物の分け方・出し方というちょっと厚い冊子でも小型家電の出し方も含めて記載しておりますので、そういったところを踏まえてしっかりと周知広報していきたいと思っています。

2点目の、ごみの出し方に地域性があるのではないかとこの点ですが、始まってみないと分からないところですが、おそらく地域差はあると思います。現場の状況を確認しながら、分別ができていないところがあれば、集積所での早朝啓発なども交えながら地域に入り、分別を促したいと思っています。また、改めて、ごみと資源物の分け方・出し方をポスティングするなどもできますので、地域によって使い分けながら、きめ細かくやっていきたいと思っています。

武田議員：もう1点、外国人に対する周知については多文化共生ラウンジにもご協力いただきながら進められているかと思いますが、感触と伺いますか、本当に理解いただけているのかどうか、そのあたりの状況をお伺いします。

関資源化推進担当課長：外国籍の方々、外国人の方々に対する啓発というの

は非常に難しく試行錯誤をしながらやっているところです。多文化共生ラウンジとも連携しながら、ごみ出しにはルールがあるということをご存じない方もいらっしゃると思いますので、ごみ出しにはルールがあるということを多言語化したものを、要望のある集積所に貼りだしたり、外国人ボランティアの方々にご協力をいただいて、外国人の方々のコミュニティを活用させていただきながら横浜市のごみの分別にご協力いただけるよう働きかけるといようなことを、今始めているところです。少しずつ広げていけるような取組を進めていきたいと考えております。

武田議員：非常に大変だと思いますがよろしくお願いします。また、スポGOMI大会の12月開催の予定日が決まっていたら、教えてください。

関資源化推進担当課長：12月7日を予定しております。

武田議員：地域貢献したいという若い人からのご相談があったので、スポGOMI大会についてお知らせしたいと思っています。

続きまして、12ページの広報・案内事業について、庁舎の案内窓口があります。今、お悔やみ窓口というものを、鶴見区・瀬谷区で先行してモデル区として設置していますが、今後、全区展開していきたいというところです。局に、現状磯子区としてはまだ専用窓口がない中でどうしたらいいのかと質問をしたら、1階の窓口で尋ねていただければどこの窓口手続きをすればいいかというのはご案内できます、と伺いましたが、現状そのような問い合わせがあるのかお伺いします。

吉田区政推進課長：現状そのような問い合わせについて集計ができていないため、今後ヒアリングなどで確認していきたいと思っております。

武田議員：続いて、20ページの子育て応援事業です。(5)の子育て支援連絡会を全5回開催されていますが、この内容についてお伺いします。

坂東子ども家庭支援課長：子育て支援連絡会は、幼稚園、保育園、子育てサ

ークル、主任児童員の方など、地域の子育て支援者の方や地域の方々にお集まりいただき開催しております。その中では、市の取組、区役所の取組を毎年度お伝えし共有させていただくとともに、地域の課題について、その場でグループワークをしまして、その課題に対してどのような取組ができるか、地域の方と一緒に議論させていただいております。その地域にあった取組につなげていくことを目指しております。実際の取組につながっているケースもございます。

武田議員：坂東課長とよく意見交換させていただいていますが、今やはり男性、パパさんが育児に積極的に参加されて、それが求められる時代に入りましたので、こういった連絡、共有する場で、おそらく女性の方が今中心なのかなと思います。こういった場に今後はパパさんにも積極的に入っていけるような、そういった仕組みも今後検討していったほうがいいのかと思います。併せて、パパ同士がつながるネットワークが作れるような、そういったイベントを積極的に開催してほしいと思っています。そういった場があれば情報交換もできやすいと思いますし、また人脈もそこでつながったりすればまた何か大きなことも今後できるかもしれません。いそピヨも、男性は日曜日に休む方が多いので、ぜひ日曜日も開いていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

坂東子ども家庭支援課長：昨年度実施した子育てニーズ調査の結果でもそのようなニーズがあることが出ていますので、取り組んでいきたいと思っております。また、子育て支援連絡会への男性の参加というお話がありましたが、集まっているメンバーは女性が大半です。保育園の園長や関係機関の代表の男性もいらっしゃるのですが、より男性の方が増えるような働きかけができればいいかと思うのですが、なかなか難しい面もあります。男性向けの取組ができるよう議論ができると思いますので、考えていきたいと思っております。

武田議員：24 ページの多文化共生推進事業ですが、ラウンジにも積極的に地域に出ていただきごみの分別の周知などご協力をいただいている

ということですが、支援する側、ラウンジの課題を把握されていれば、こういう取組をやるのにもっと人が必要だとか、予算が必要だとか、そういう支援する側にとって必要だなというものがあればお伺いします。

柿崎地域振興課長：日本語教室など、色々なボランティア等々で活動されている団体がありますが、課題と言えるかどうかは定かではありませんが、個々の地域で活動されていてそこで完結しているならいいのかもしれませんが、区全体で住まれている外国人の方に手を差し伸べていくといったときに、横のつながりとか団体さんだけではできていないところがあります。このため、ラウンジと連携して日本語教室を行っている団体を集め連絡会の取組を始めているところでございます。連携しながら開催しておりますが、連絡会などを通じて横のつながりができると、違った展開もできるのかなと考えており、そういったところで各団体のご意見も聞きながら、引き続き、何ができるかということは考えていきたいと思っております。

武田議員：ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

二井議員：15 ページの認知症サポーター養成講座について、私もサポーターにならせていただいたのですが、今、区内でどれくらいの方がサポーターになっていらっしゃるのかということと、この春に栄区のイトーヨーカドーでスローショッピングの取組が始まり、とてもいいことだなと思ひ磯子区内でもぜひそうした取組を実施できる場所があったらいいと思っているのですが、ご予定がございましたらお伺いします。

柴田高齢・障害支援課長：まず認知症サポーターの養成講座の開催状況ですが、5年度磯子区では年間で34回、うち小中学校でも子どもたちに向けての講座などを開催しておりますが、昨年度1年間でこの養成講座を受けて1,431の方が新たにサポーターになっております。サポーター養成講座は平成27年度から積み重ねており、累計2万人を超えている状況です。実際にその方たちには、地域の

中で困っている方がいたらお声をかけていただいたり、認知症カフェに来ていただいて、認知症の方やご家族の方々の相談に乗ることで活躍いただいています。栄区のスローショッピングの取組については、磯子区では今計画にはないのですが、他区の様子も見ながら今後考えていきたいと思っています。

二井議員：2万人を超えているというのはすごく多いという印象です。スローショッピングについては、ぜひ他区の状況を見ながら、磯子区でもご検討いただければと思います。

次に、18ページの地域の居場所づくり支援事業で、空き家や空き店舗の活用のための補助金交付を2団体と予定をされているということですが、この2団体というのが多いのか少ないのか所感を伺います。また、磯子区内の空き家の現状はどれくらいなのか、さらには磯子区内の空き家が増えているのかどうか、補助金の交付事業を進めていらっしゃる中で、何か課題感があればお伺いします。

柿崎地域振興課長：補助金事業について、今年度は新規申請2件という数字でございますが、昨年度は新規の申請までこぎつけた案件は1件もございません。相談はいくつかいただいているのですが、耐震基準の問題や、改装して実際にそこを居場所として運営していくまでのプラン作成の段階で、申請まで踏み出せないといったような状況があるのが事実でございます。

今年度は、現時点で4件ほど相談を受けておりますが、1件でも多く申請いただけるよう、地域振興課でも相談者の相談内容に丁寧に対応していきたいと考えているところでございます。

吉田区政推進課長：空き家の件数に関しては5年に1回の調査を行っており、区内で1,000件程度ということで特に変更はございません。最新の調査結果が今後出てきますので、改めて空き家の件数自体は明らかになっていくかと思っております。

二井議員：色々活用しようと思ってもなかなか難しい現状があると思いますが、取組を続けていただけたらと思います。

次に、20 ページの「いそっこマップ」の改定についてお伺いします。前回の会議の際、様々な相談窓口が区役所に設置されているということで、それ自体はとて素晴らしいことだと思いますが、一方、窓口の案内が並列して記載され、どこに相談するのが適切なのかわかりにくいと思いき質問させていただきました。今回の改訂にあたって、見せ方の工夫等をされているかなど変更点があればお伺いします。

坂東子ども家庭支援課長：改訂に当たり、どこにまず相談していいかわかりにくいという意見は職員の意見でもありましたので、このページ自体の内容は大きく変わってはいないのですが、最初のお問い合わせ先について目につくように赤地で白抜きで文字で、真ん中に見えるような形で表示するよう改善しているところでございます。先の話ですが、広報よこはま 10月号でも子育てに関する相談窓口を掲載しようと準備しておりました、その中でも、「ここが相談先ですよ」と区民の皆さまに知っていただけるように工夫して取り組んでおります。

二井議員：色々ご相談いただくので、改定版をぜひ拝見し、適切な場所をおつなぎできるように頑張っていきたいと思っております。工夫をしていただきありがとうございます。

次に 26 ページの避難場所等広報事業についてお伺いします。すごくいい取組だと思っているのですが、今回 75,400 部を作成し 66,040 世帯への配布を予定していると伺ったのですが、とてもいいものなので、残りの 9,360 部についてもぜひ余らせることなく配布をしていただきたいと思っております。町内会を通じて配布されるということで、以前に武田議員もご質問されていたと思っておりますが、町内会に入っていないような方にどのように配布をしていくのかお伺いします。

角田総務課長：今まさに、広報よこはまがご自宅に届く世帯については配布をさせていただいているところでございまして、既に届いたところとこれから近いうちに届くところとあるかと思っております。ご質問いただきました、広報が直接ご自宅に届かない世帯への配布につ

いては、まず1つには、ホームページへの掲載やこれから磯子区に転入されてくる方にも届くような形での広報を行います。また、地域に防災講座でお伺いをした際や、地域のイベントで啓発を行った際などあらゆる機会を捉えて、在宅避難とはこういうものですよというお話をする際には必ずツールとして手元に持って伝えていきたいと思っております。ただ、直接的に広報よこはまが届かない世帯にお配りするというのは難しいので、広報の仕方は工夫をしつつも、できるだけお問い合わせですとか、あらゆる機会を逃さないようにしっかり捉えてお知らせをしていきたいと思っております。

二井議員：ぜひよろしく願いいたします。

次に、10ページの駅周辺清掃事業の状況について伺います。区民の皆さまから、駅前のたばこの吸い殻が多いということで、私自身も駅前に伺うと、やっぱりそういう状況を日々目にしますが、現状磯子区内の、美化推進地区になっている磯子駅周辺と、それ以外の新杉田や根岸、洋光台、それぞれの各駅について啓発とか巡回の状況と、またその現状の課題感としてどのようなことをお感じになっているのかについて伺います。

関資源化推進担当課長：現在、委託によりまして、根岸駅、磯子駅、新杉田駅の周辺の歩道の清掃を実施しています。磯子駅は週3回、新杉田駅は週2回、根岸駅は週1回行っているところです。毎月の平均になりますが、やはり燃やすごみやたばこの吸い殻、プラスチック、缶・びん・ペットボトル、さらには傘などが廃棄されている状況です。それ以外にも、11月には環境事業推進委員の方々と連携して、ポイ捨て禁止キャンペーンを行っています。今年も11月に実施予定で、そういったところからポイ捨て禁止の啓発を行っていきたいと考えております。人のモラルやマナーに訴えかけるところですので、どういう対応がいいのか、いろいろ試行錯誤をしながら取り組んでいるところですが、継続的に粘り強く、区民の皆さまに訴えかけていきたいと考えております。

二井議員：ぜひよろしく願いいたします。

最後に 29 ページの迷惑電話防止機器の貸与についてですが、磯子区内も特殊詐欺等増えていると、調べたところによると、昨年よりも今年、上半期の方がすでに被害総額が多く、このままのペースでいくと、昨年を上回る件数にもなるだろうというような数字にもなっているところです。磯子警察に伺ったのですが、迷惑電話防止機器は他の区でも取組を行っていますが、磯子区の特徴として年齢制限を設けていないという事が伝わっていない部分があると思いました。磯子区独自の取組として広報の差別化なり PR をしていただくことによって、迷惑電話防止機器があるということが、区民の皆さまに知っていただくことにつながると思いますが、広報の工夫など今後の取組についてどのようにお考えかをお伺いします。

柿崎地域振興課長：迷惑電話防止機器は、令和 2 年度から区役所で購入し、磯子警察署で貸し出すという形で行っております。磯子警察署のご意向、詐欺の電話が実際にかかってきた高齢者の方に貸し出したいなどその時々のご意向もありますので、磯子警察署とも相談しながら、お知らせする方法を警察署と一緒に考えていきたいと思っております。

二井議員：警察署とお話をしていたらそのように感じたので、ぜひご検討いただければと思います。以上です。ありがとうございます。

関議員： 6 ページですが、8 月 29 日のフラワーミニフェスタと同日に開催された GREEN×EXPO 2027 の説明会ですが、ちょうどこの日は横浜市でも災害警戒体制が敷かれていたと思うので、まずは開催されたのかどうかお伺いします。

吉田区政推進課長：GREEN×EXPO 2027 の地域説明会は 8 月 29 日に磯子公会堂で開催され、208 人の地域の方にご来場いただきました。当日夕方に大雨警報が発令されましたが、事前に脱炭素・GREEN×EXPO 推進局と調整をしておりまして、当日無事開催に至りました。

関議員： 市長も来たのですか。

吉田区政推進課長： はい、市長も来場し、講演と意見交換を行っております。

関議員： 今回は GREEN×EXPO 2027 の P R という意味で、環境に関心が高く、連合町内会を中心に各地域で活動されているような皆さんを限定して案内いただいたと思います。私も環境事業推進員のため案内が届きました。取組としては間違っていないと思います。まずは花や緑、環境に非常に関心の高い、日々地域で活躍している皆さん方に、P R、機運醸成をするということは大事だと思います。ただ、「一般の区民、市民は行ってはいけないんですか？」というお話が私の事務所にもあったので、私からは区役所のほうではおそらく、出向かれればその場で断るというようなことはないと思いますよ、というお話をしました。実際に当日は一般の区民の方の参加はあったのか伺います。

吉田区政振興課長： 当日、事前申し込みをしていない方の来場はありませんでした。

関議員： 分かりました。今年もおそらく GREEN×EXPO 2027 関連ブースを磯子まつりでも出されると思いますが、去年とは違ったこういう P R をしていく予定というのが、もし今分かっていたら教えてください。

吉田区政推進課長： 磯子まつりでは GREEN×EXPO 2027 の P R をしっかりやっていきたいと思っており、詳細について検討中です。去年よりも今年の方が出せる情報もより多くなっていると思いますので、局とも調整しながらより P R ができるような形を考えていければと思っております。

関議員： 磯子まつりは不特定多数の区民の方々足が運ばれるという絶好の機会ですので、GREEN×EXPO 2027 に関する情報を早く、分かりやすく提供するということが大変だと思いますので、引き続き所管局に対しても調整をよろしく願いいたします。一例ですが、知り合いの花屋さんの店主が GREEN×EXPO 2027 について、

「なんかやるみたいね」と、よく知らないと言っていて、すぐに局へ行って、一番大きなポスターをお店の中に貼らせてもらいました。そうしたら、毎日のように花を買いに来る人たちへのPRにつながったということがありました。区商連に協力いただきやってみる、環境や花に関心の高い皆さん方にPRするというのも一つだと思いますので、参考にさせていただけたらと思います。また、磯子まつりに関連して、岩手県の大槌町は今年も出店されるのかお伺いします。

柿崎地域振興課長：大槌町は今年も出店予定でございます。

関議員： ありがとうございます。

次に、「磯子の逸品」について、改訂される毎に、東京事務所に100部～150部届けていました。今回も新たな商店街マップや磯子の逸品、とにかく磯子区をPRする魅力発信という意味からすれば、ぜひ磯子区でも持って行っていただきたい。横浜市のPRといえはみなとみらいとか三溪園などその程度です。横浜のディープな魅力を知りたいという方には、区のPR冊子を置くことによって、磯子区へ足を運んでもらうというきっかけになるとと思いますので、区民に対する魅力発信は大いに結構ですが、外から磯子区に足を運んでもらう、来街者を増やすというのも一つだろうと思いますので、提案させていただきます。

また、魅力発信事業で堀割川の冊子を作成するなど、土木遺構ですから横浜の遺産としてPRしていただきたいです。気になるのは、洋光台にあるこども宇宙科学館のプラネタリウムです。せっかくギネス認定も取りましたが、PRが足りないのではないかなと思っています。副館長さんと話すと、もちろん横浜市内の子どもたちも学習がてらに訪ねてくることが多いが、意外と他市が多いということです。横浜のお土産ものを置いとくと売れるらしいので、先日お願いして、杉田梅のドレッシングを置いていただきました。それも魅力発信の一つだと思いますので、ぜひ連携をしていただきたいと思います。

今、磯子区として全国のどこかの町と提携している都市があればお伺いします。

立花センター担当部長：区役所としてというご質問だったと思いますが、少し違いますけれど、岡村地区連合町内会が、長野県の池田町というところと協定を結ばれていまして、毎年小学生が、行ったり来たりということをしていると伺っております。なお、今年はあちらから横浜に来る予定です。

関議員：今のところ、連合町内会としてはあるけれども、区としての連携都市はないということですね、分かりました。

15ページのひとり暮らしの高齢者等への相談窓口啓発について、6年度新規事業なので数ヶ月しか経っていませんが、チラシをどの程度配布したのかまず伺いたいのと、既にそのチラシでつながった方の相談内容を把握していたら、その中で、終活相談というのを実際に受けたことがあるかどうかお伺いします。

柴田高齢・障害支援課長：今年度の事業については、チラシとお配りするマグネットを最終的に校正している段階で、これから配布予定になっております。今まで介護保険や民生委員さん、ケアプラザ等とつながっていない方に対して、郵送でチラシとマグネットを送らせていただいて、今回はその方がお住まいのエリアの地域ケアプラザを限定して、あなたの相談できる地域ケアプラザはここですよ、それから区役所の窓口はここですよとマグネットに書いて、相談先をわかりやすく記載してお届けするというのを考えております。これから配布ですので、そこからつながった方をこれから把握してまいります、今の予定としましては、12月までには、郵送でお届けできるように進めております。

関議員：対象が一人暮らしの高齢者等ということで良い事業だと思いますし、今後は検証効果というものを聞いていきたいと思います。最後に多文化共生事業について、外国人区民向けに防災のサイトを作りましたよね。これはすごくいい取組だなと、多言語で、避難とかそういったものを伝えてくれています。チラシにQRコードを掲載してサイトに繋がるようにしていますが、このサイトについて外国人の方がどれだけ閲覧しているかお伺いします。

柿崎地域振興課長：QRコードを通じてアクセスした数については把握できていないので、把握できた時点で、ご案内できればと思います。

関議員：外国人住民が増えている地域については、地域の要望ではなく、こちらからプッシュ型で、いろんな情報を収集場所とかに貼り付けていくことができれば良いと思いました。

磯子区の外国籍の方が本当に増えている現状について、区として、そういった方々に対してどんなアプローチというか、お付き合いをしていこうか、ということがあれば高橋区長からご紹介いただけたらと思います。

高橋区長：多文化共生ラウンジ、そこがいかにつながれるか、相談しやすい施設であるかどうか、そこがまずは評価の分かれ目なのかなと思っています。今回、地域のお祭りにラウンジも積極的に出ていてくれていますので、まずは名刺代わりに、地域とのつながりを作ること、そこから、多文化共生ラウンジのいいところをご理解いただければ、じわじわと広がっていくのかなと思っています。他区の事例で申し訳ないのですが、港南区のラウンジはもう設置から10年以上経っておりますけれども、そこで年一回の発表会があるのですが、本当に自分が苦しいときにラウンジにお世話になったという参加するだけで涙が出てくるような、そのような発表会がございまして、磯子区においてもそういう発表会ができるような、そういうラウンジと一緒に育てていきたいと思っております。

関議員：本当にその通りですね。磯子区にラウンジができたこと自体はすごくよかった。これを本当に機能させていくというのはまさに正念場であるというふうに思っていますので、皆さま方にも、頑張っていたいただきたいなと思います。

太田議員：資料に再配当とありますが、追加で予算が増えたという意味ですか。

角田総務課長：再配当事業とは今年度からの呼び方で、昨年度までは、区配事業と言っていたものでございます。局から予算として配付され、区役所が行う事業の名称でございます。

太田議員：予算が増えたわけではないのですね？

角田総務課長：はい、そのとおりです。区配事業が再配当事業という呼び方に今年度から変わりました。

太田議員：歳入がある区の事業の有無についてお伺いします。

角田総務課長：本日の資料ですとちょっと分かりにくいですが、自主企画事業、統合事務事業等で、例えば広報よこはまの発行事業ですと、広告料が入ってくるとか、そういったものが多少ございます。

太田議員：参加料などを徴収している事業はありますか。

角田総務課長：現状、参加料をいただいている事業はございません。

議題3 令和6年度磯子区予算編成の考え方について

特になし

その他

特になし

備 考